

2013年9月12日 全8頁

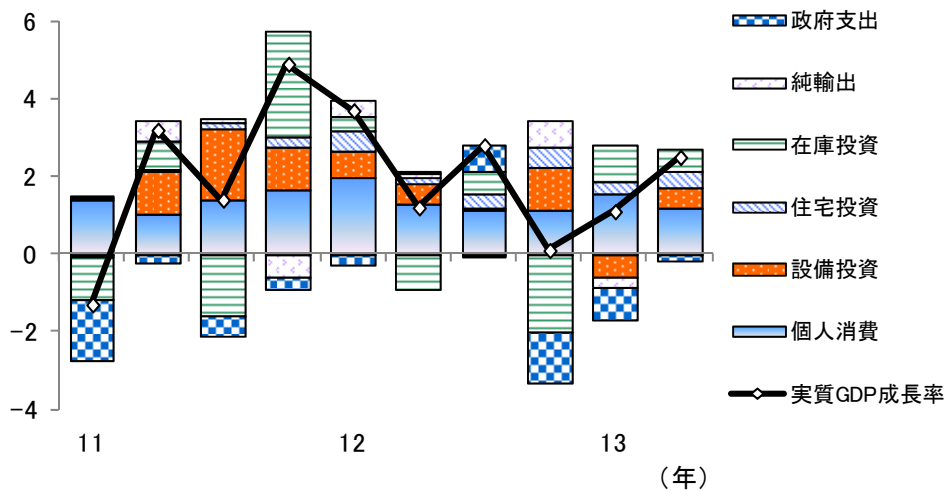
アメリカ経済グラフポケット(2013年9月号)

2013年9月6日発表分までの主要経済指標

ニューヨークリサーチセンター
上野 まな美
エコノミスト 笠原 滝平

実質GDPの推移

(前期比年率、%、%pt)



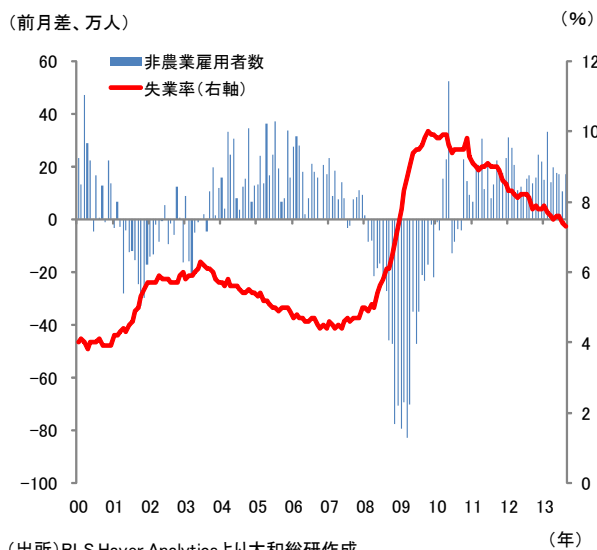
(前期比年率、%、%pt)	2011		2012				2013	
	7-9	10-12	1-3	4-6	7-9	10-12	1-3	4-6
国内総生産	1.4	4.9	3.7	1.2	2.8	0.1	1.1	2.5
個人消費	2.1	2.4	2.9	1.9	1.7	1.7	2.3	1.8
設備投資	16.7	9.5	5.8	4.5	0.3	9.8	-4.6	4.4
住宅投資	6.1	12.2	23.0	5.7	14.1	19.8	12.5	12.9
政府支出	-2.5	-1.5	-1.4	0.3	3.5	-6.5	-4.2	-0.9
輸出	7.0	2.7	4.2	3.8	0.4	1.1	-1.3	8.6
輸入	4.9	5.9	0.7	2.5	0.5	-3.1	0.6	7.0
寄与度								
個人消費	1.4	1.7	2.0	1.3	1.2	1.1	1.5	1.2
設備投資	1.8	1.1	0.7	0.5	0.0	1.1	-0.6	0.5
住宅投資	0.2	0.3	0.5	0.2	0.4	0.5	0.3	0.4
在庫投資	-1.6	2.7	0.4	-0.9	0.6	-2.0	0.9	0.6
政府支出	-0.5	-0.3	-0.3	0.1	0.7	-1.3	-0.8	-0.2
輸出	0.9	0.4	0.6	0.5	0.1	0.2	-0.2	1.1
輸入	-0.8	-1.0	-0.1	-0.4	-0.1	0.5	-0.1	-1.1

(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

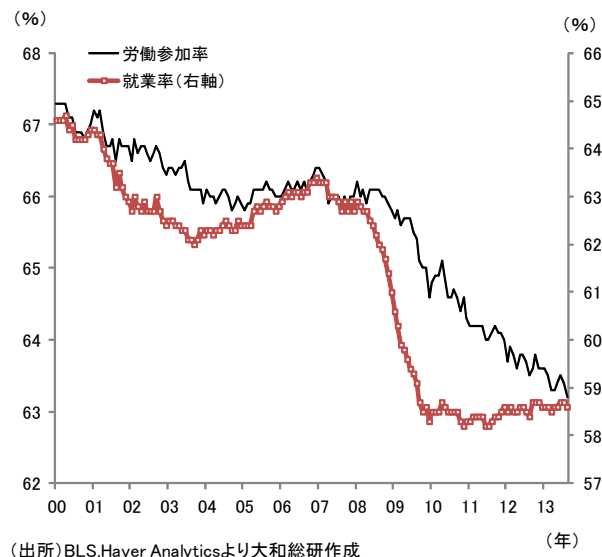
雇用環境¹

- ◆ 8月の失業率は7.3%で、7月から0.1%ポイント低下した。失業率は2008年12月以来の低水準となった。
- ◆ 非農業雇用者数は前月差16.9万人増で、7月から増加幅が拡大した。非農業雇用者数の前月差の6ヵ月平均は16.0万人増と、雇用の改善ペースが鈍化した可能性がある。

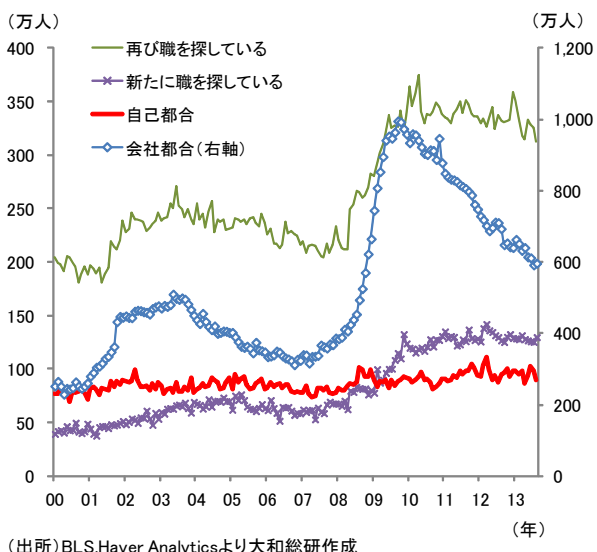
非農業雇用者数と失業率



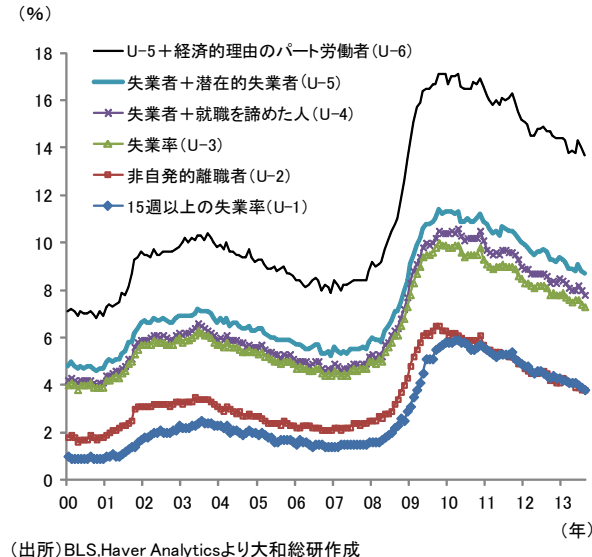
労働参加率と就業率



理由別失業者数



定義別失業率

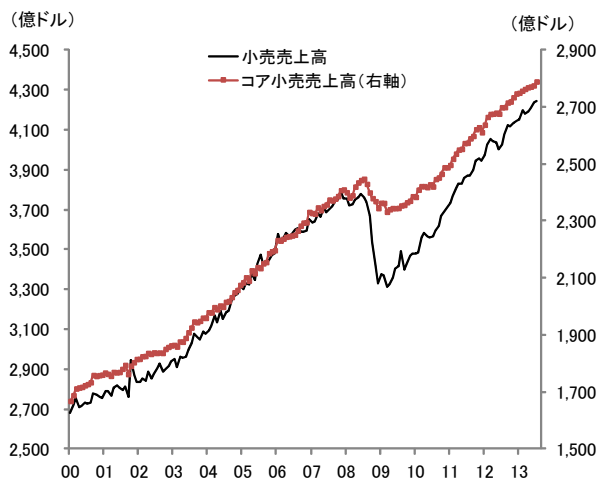


¹ 大和総研ニューヨークリサーチセンター 笠原 滝平「雇用の量的改善は鈍化傾向か」(2013年9月9日)
参照: http://www.dir.co.jp/research/report/overseas/usa/20130909_007665.html

個人消費

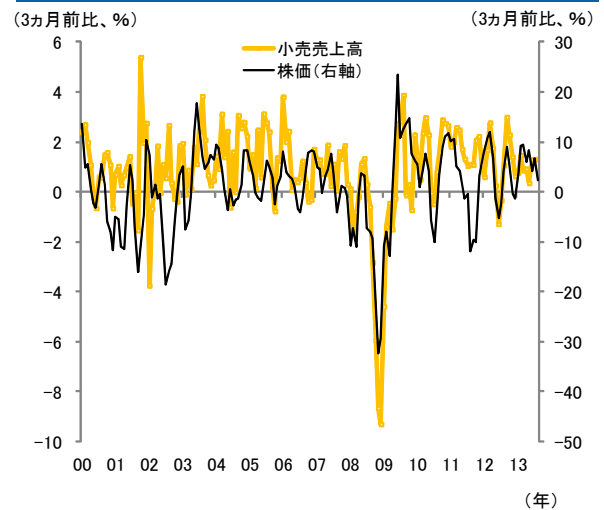
- ◆ 7月の個人消費は小売売上高が前月比0.2%増で、コア小売売上高は同0.5%増であった。コア小売売上高は2013年に入ってからの最大の伸びである。
- ◆ 消費者マインドは低下し、8月のロイター/ミシガン大の消費者センチメントは、4月以来の低水準となった。
- ◆ 8月の自動車販売台数は前月比1.8%増で、年率換算では1,602万台と好調であった。2007年11月以来約6年ぶりの高水準を記録した。

小売売上高の推移



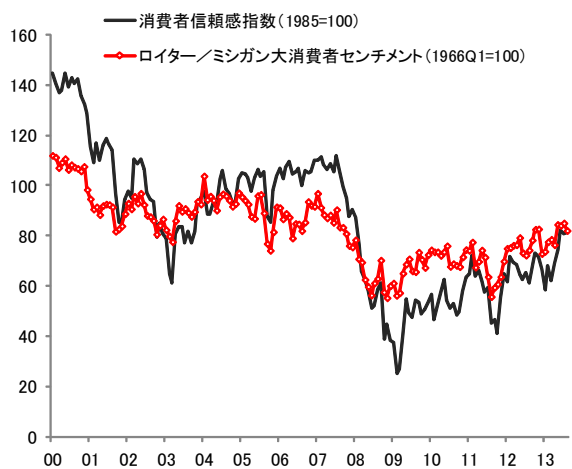
(注) コア小売売上高は自動車ディーラー、ガソリンスタンド、建材・園芸除く。
(出所) Census, Haver Analyticsより大和総研作成

消費と株価



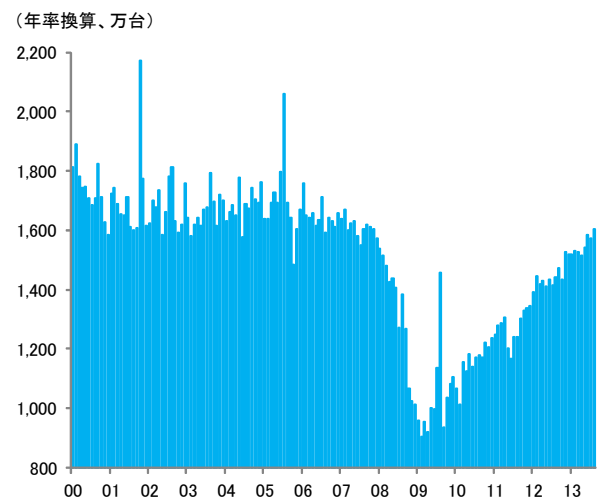
(注) 株価はWilshire5000。
(出所) Census, Dow Jones, Haver Analyticsより大和総研作成

消費者マインド



(出所) ロイター/ミシガン大, Conference Board, Haver Analyticsより大和総研作成

自動車販売台数

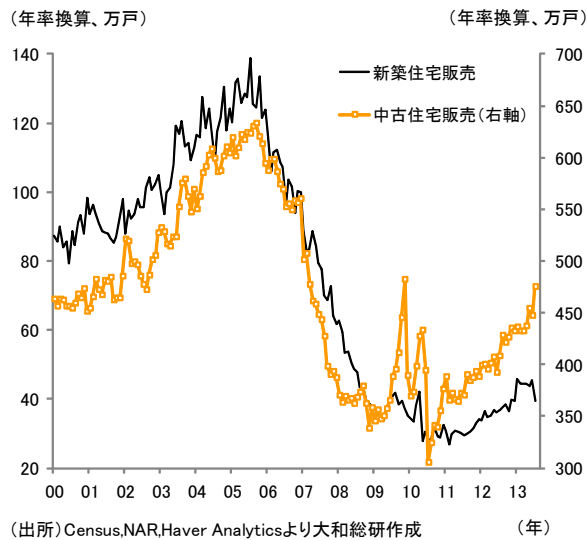


(出所) BEA, Haver Analyticsより大和総研作成

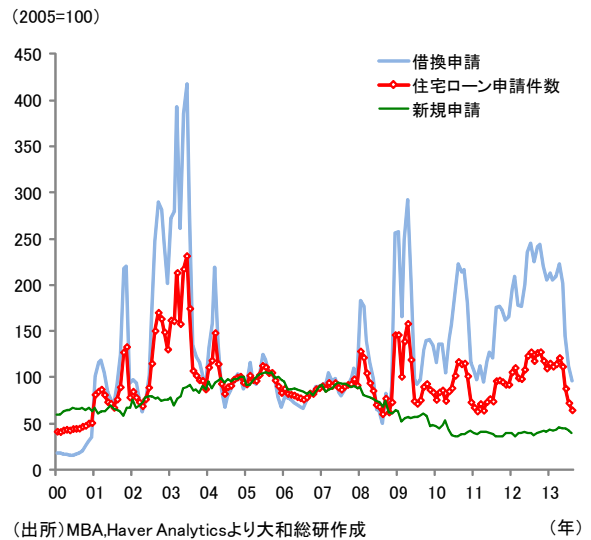
住宅市場

- ◆ 7月の新築着工は前月比5.9%増の年率換算89.6万戸と、前月の減少からプラスに転じた。
- ◆ 7月の中古住宅販売（一戸建て）は、年率換算476.0万戸で前月比6.3%増。住宅購入者に対する税額控除の期限切れを迎えた2009年11月以来の高水準となった。
- ◆ 7月の新築住宅販売は、年率換算39.4万戸で前月比13.4%減と大幅に落ち込んだ。2012年10月以来の低水準である。
- ◆ 6月の住宅価格は引き続き上昇しており、ケースシラー住宅価格指数（20都市）は2008年9月並みの水準まで回復した。

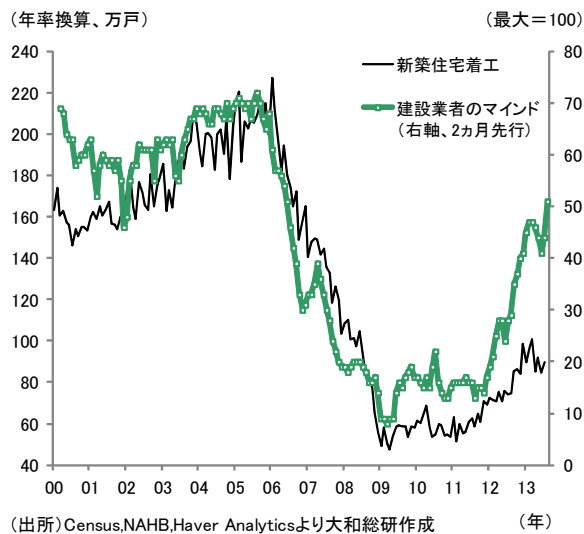
住宅販売（一戸建て）



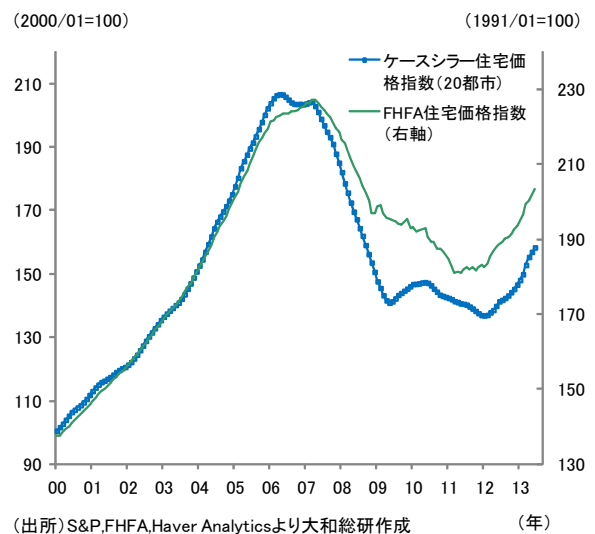
住宅ローン申請件数



住宅着工と建設業者のマインド



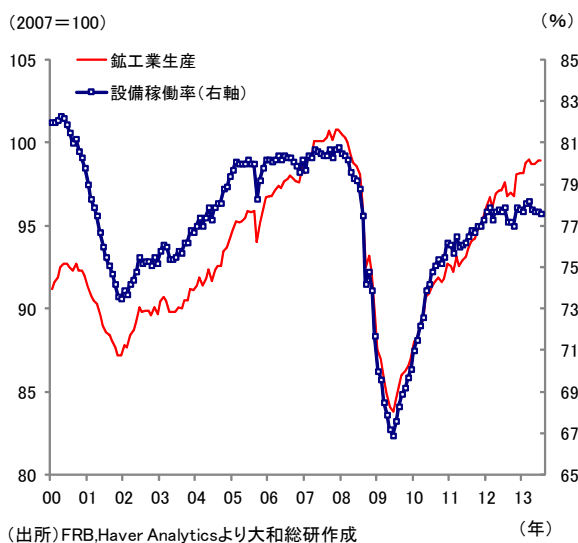
住宅価格



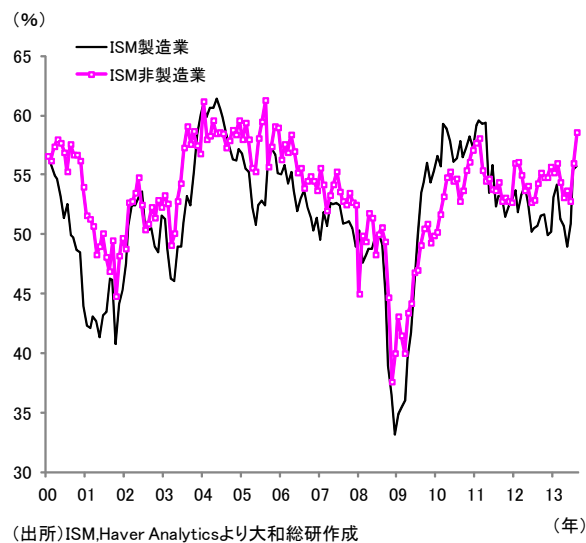
企業動向

- ◆ 7月の鉱工業生産指数は前月比0.0%増と前月と同程度の水準で、製造業は同0.1%減となった。
- ◆ 7月の国防・航空機を除く資本財受注は前月比4.0%減。過去4ヵ月にわたって増加が続いていたが、7月は2月以来の大幅な減少となった。
- ◆ 8月のISM製造業指数は前月比0.3%ポイント上昇。新規受注の増加が寄与し、2011年6月以来の最高水準となった。非製造業指数も好調で同2.6%ポイント上昇し、2005年12月以来の高水準となった。

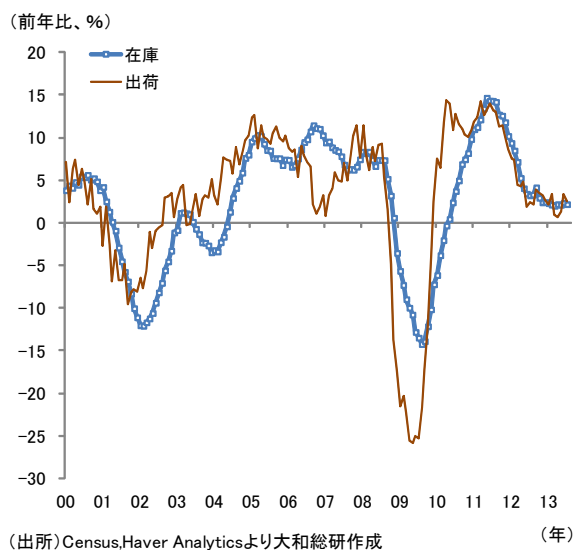
鉱工業生産と設備稼働率



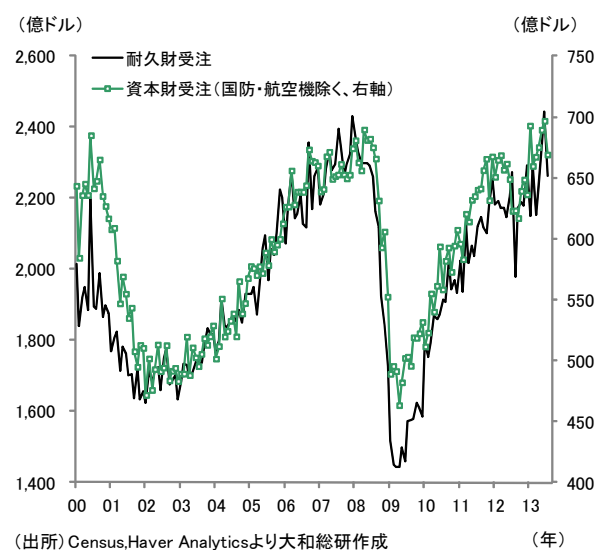
企業の景況感



製造業の出荷・在庫



耐久財受注



物価動向

- ◆ 7月のCPI（消費者物価指数）は前年比2.0%増で、コアCPIは同1.7%増であった。両指数ともに、FRBが目標とする2%に近付いた。
- ◆ 8月末のWTI原油先物価格は107.65ドル/バレルと、7月末の105.03ドル/バレルから更に上昇し、月末値としては2011年4月末以来の高価格となった。

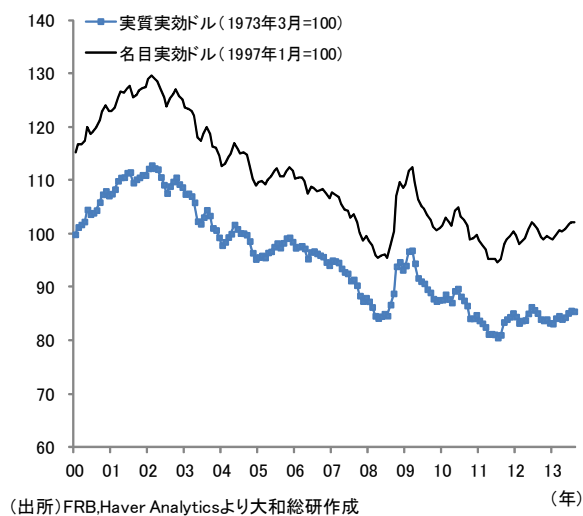
消費者物価指数



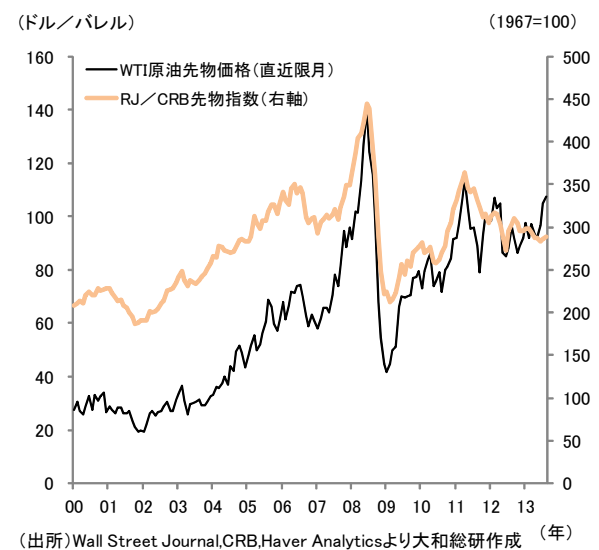
期待インフレ率



実効為替レート(ブロード)



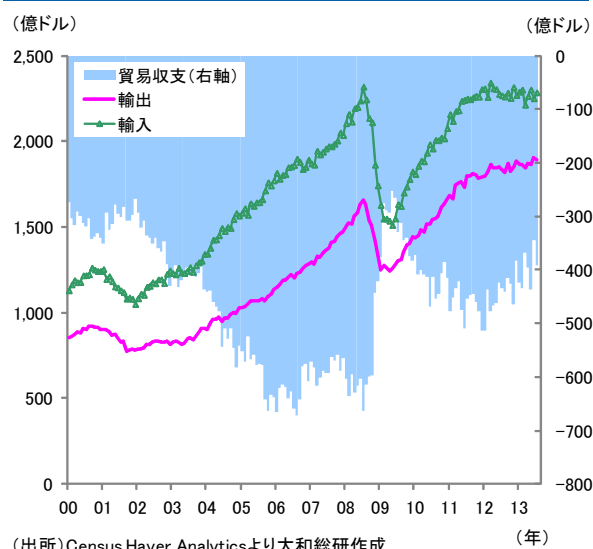
コモディティ価格



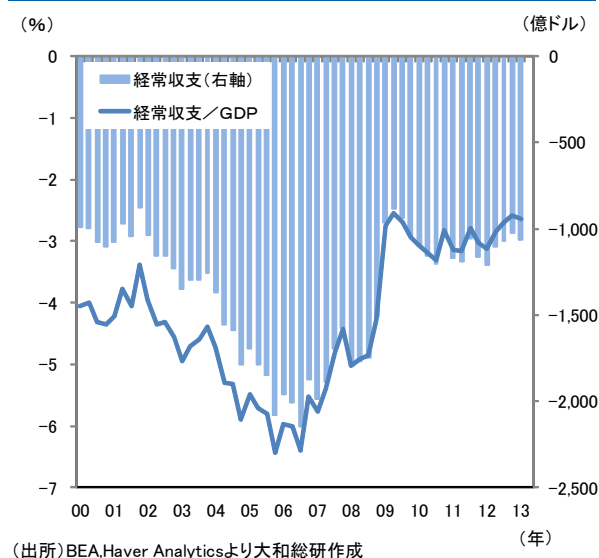
輸出入・経常収支

- ◆ 7月の貿易収支は、輸入の増加により前月比13.3%増の391億ドルの赤字となった。
- ◆ 輸出は前月比0.6%減の1,894億ドルで、輸入は同1.6%増の2,286億ドルであった。
- ◆ 地域別では、日本向けの輸出が前年比で減少したが、欧州と中国向けの輸出が前年比増となった。輸入は、日本からの輸入が前年比マイナスであったが、欧州と中国からの輸入が前年比プラスであった。

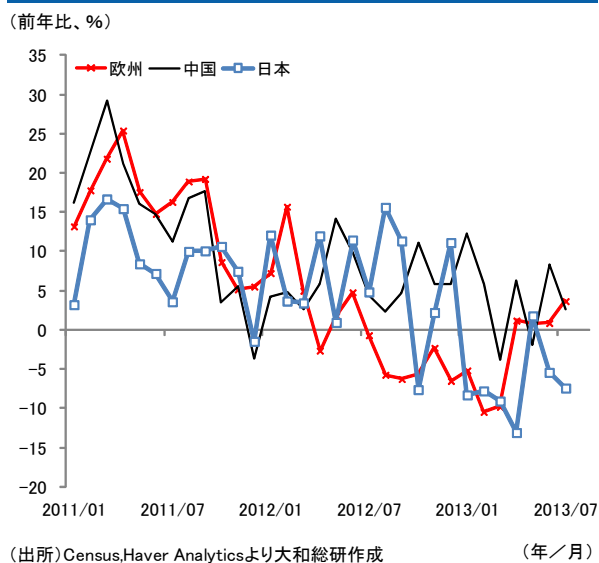
貿易収支動向



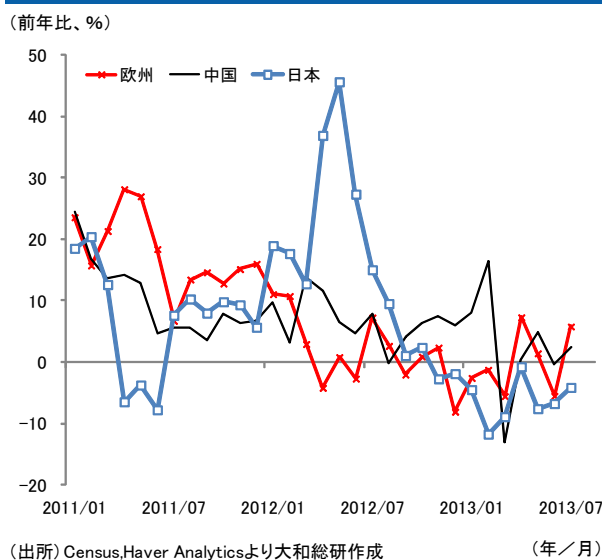
経常収支の推移



国・地域別輸出動向



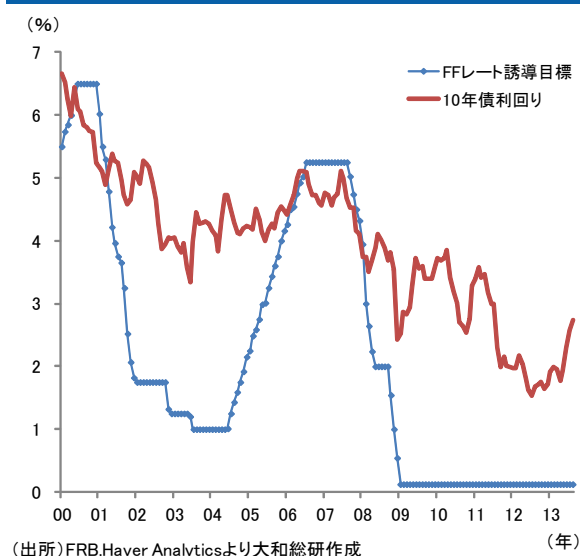
国・地域別輸入動向



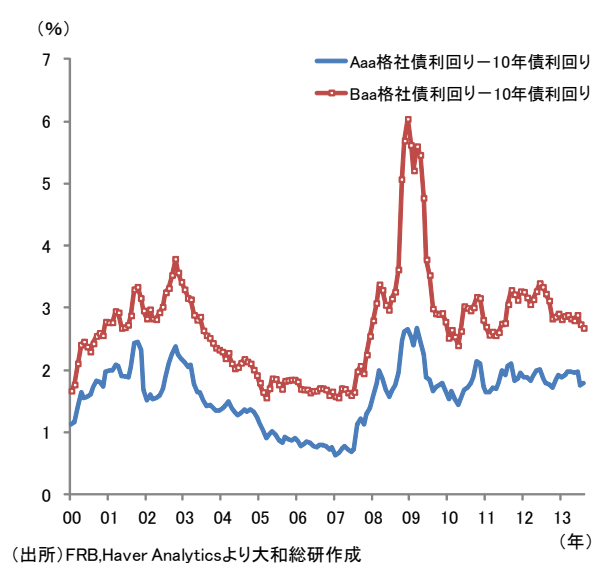
金融・財政

- ◆ 長期金利の上昇が続き、8月平均値は2.74%となり、2011年7月以来の高水準を記録した。長期金利は過去4ヵ月間に約1.0%上昇した。
- ◆ QE3を受け、FRBの資産残高は増加が続き、直近の9月4日の週平均では約3兆6,900億ドルであった。
- ◆ 連邦政府の財政収支は、歳入の増加により赤字幅の縮小が続いている。

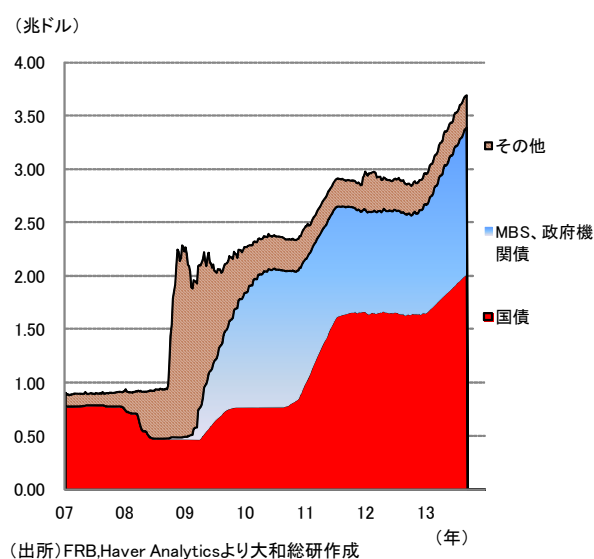
政策金利・長期金利



クレジットスプレッド



FRBの資産構成



連邦政府の財政収支

